

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業

【令和3年度予算概算決定額 615 (635) 百万円】

<対策のポイント>

食品安全、動物衛生、植物防疫等の問題発生後の未然防止や発生後の被害拡大防止のため、**行政施策・措置の決定に必要な科学的知見を得るための研究（レギュラトリーサイエンスに属する研究）**を、内容に応じて柔軟に規模や期間などを選択して実施します。

<政策目標>

本研究で得られた科学的知見を**食品安全・動物衛生・植物防疫等の行政施策・措置**に反映することにより、**安全な国産農畜水産物の国内外への安定供給が可能となり、輸出促進にも貢献**します。

<事業の内容>

1. 課題解決型プロジェクト研究

シーズ研究から応用・開発まで、我が国の研究勢力を結集して総合的・体系的に推進すべき長期的視点が求められる大規模な研究を実施します。

(研究費・研究実施期間)

- 研究費：課題ごとに設定
- 研究期間：原則5年

2. 短期課題解決型研究

現存する技術シーズや知見を活用して、1～3年程度で成果が見込まれる比較的規模の小さい研究課題を**短期的・機動的**に実施します。

(研究費・研究実施期間)

- 研究費：3,000万円以内/年
- 研究期間：原則3年以内

<事業の流れ>

委託



[お問い合わせ先]

農林水産技術会議事務局研究開発官室 (03-3502-0536)
消費・安全局食品安全政策課食品安全科学室 (03-3502-5722)

<事業イメージ>

① 課題解決型プロジェクト研究

シーズ研究から
応用・開発まで実施



行政施策・措置に活用

ア 食品安全対応プロジェクト

- 省力的かつ現場で使い易いイコメの無機と素低減技術の開発
- 食品中の3-MCPD脂肪酸エステル類及びグリシドール脂肪酸エステル類に関する研究 等

イ 動物衛生対応プロジェクト

- 家畜の伝染病の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発
- 官民・国際連携によるASFワクチン開発の加速化及びCSFの新たな総合的防除技術の開発 等

ウ 人獣共通感染症対応プロジェクト

- 家畜における流行状況が不明な感染症の家畜や環境における生態の解明
- 薬剤耐性問題に対応した家畜疾病防除技術の開発 等

エ 水産防疫対応プロジェクト

- 国内主要養殖魚の重要疾病のリスク管理技術の開発

② 短期課題解決型研究

既存のシーズ等を活用して
緊急に必要な研究を実施



行政施策・措置に活用

(研究課題例)

- 野菜の生産環境における微生物の消長を考慮した水や堆肥の管理対策の確立
- いのしし用国産CSF経口ワクチンの開発
- Tomato brown rugose fruit virusの多検体診断技術及び防除技術の開発

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業のうち
① 課題解決型プロジェクト研究 ウ 人獣共通感染症対応プロジェクト

平成29年度～令和7年度
令和3年度予算概算決定額：162（151）百万円

新たな人獣共通感染症の発生に備えた事前リスク評価
(新規)
令和3年度～令和7年度

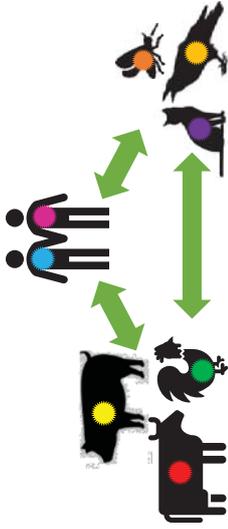
背景と目的

- 令和2年に世界的に大流行した新型コロナウイルス等、**動物には未知の人獣共通感染症**（人と動物の間を自然に伝播可能な感染症）の原因となる病原体が存在している。
- 人獣共通感染症を起こす病原体は、**世界で200種類以上**が報告されている。
- **人獣共通感染症の研究基盤の強化**が喫緊の課題。

＜研究目標＞ 新たな人獣共通感染症の発生に備え、家畜（周辺環境を含む）で流行している疾病を明らかにし、事前リスクを評価

研究内容

- 【1】家畜における流行状況が不明な感染症の家畜や環境における生感の解明
- 【2】家畜への病原性の解明やワクチン開発等に資する基盤研究



期待される効果

- ・宿主域を超えた**感染リスクを事前に予測**
- ・安全・安心な食品の提供に貢献
- ・パンデミック発生による**農業経済への損失を低減**

家畜の伝染病（インフルエンザ）の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発*
平成30年度～令和4年度

*動物衛生対応プロジェクトの「家畜の伝染病の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発」うち、インフルエンザに関する研究に対応

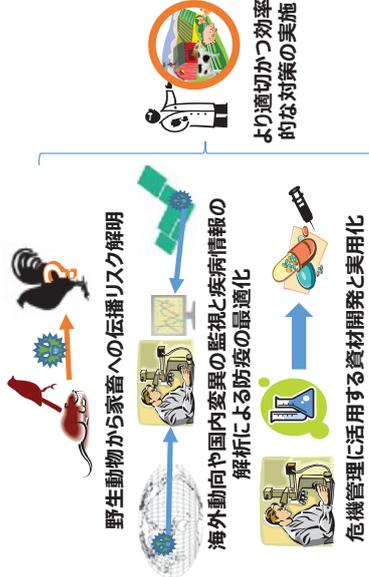
背景と目的

- 国内や近隣諸国においては、**高病原性鳥インフルエンザ等の重要な家畜の伝染病が継続的に発生**しており、常に我が国への侵入が危惧。
- 国内発生防止、もしくは万一の発生時の被害を最小限に留めるための**技術開発**が必要。

＜研究目標＞ 海外からの家畜の伝染病の侵入や野生動物を介した発生による被害を**防除・低減**する技術や資料を開発

研究内容

- 【1】野生動物から家畜への伝染病伝播リスクの解明
- 【2】発生の早期摘発や監視情報を活用した防疫の最適化
- 【3】発生時の危機管理技術の開発



期待される効果

- ・伝染病の伝播リスクの解明及び監視技術の高度化による、**発生予防体制の強化**
- ・検査・防除資料の新規開発及び高度化による**大規模発生への事前対応**
- ・特定**家畜伝染病防疫指針の改定**等

薬剤耐性問題に対応した家畜疾病防除技術の開発
平成29年度～令和3年度

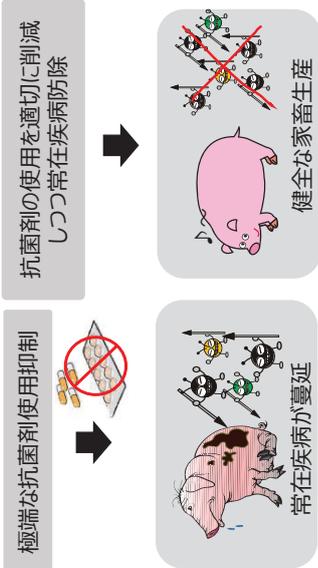
背景と目的

- 平成28年4月に政府が取りまとめた「**薬剤耐性対策アクションプラン**」において、**薬剤耐性の発生・伝播機序**の解明や、新たな予防・診断・治療法等の開発に資する研究を推進するとされた。
- 経営体や県からは、常在疾病に対する**ワクチンや検査技術**の開発の要望。
- 抗菌剤の使用を適正に削減し、かつ常在疾病も制御するための**技術開発**が必要。

＜研究目標＞ **薬剤耐性対策の目標※を達成**しつつ、**常在疾病による家畜生産性の低下を抑制**するための技術開発を実施
※大腸菌のトラサイクリン耐性率を令和2年に33%以下、セファロスポリンとフルオロキノロン耐性率を令和2年にG7各国の数値と同水準にする。

研究内容

- 【1】動物用抗菌剤の使用によるリスクを低減するための研究
- 【2】抗菌剤に頼らない常在疾病防除技術の開発



期待される効果

- ・抗菌剤の慎重使用に関するガイドラインや、家畜伝染病防疫対策の見直し
- ・常在疾病による被害を低減し、家畜生産基盤を強化